

# 地域の会



柏崎市 会田市長



新潟県原子力安全対策課 谷中課長

▲第32回定例会 情報共有会議  
(平成18年2月1日(水) 柏崎産業文化会館3F大ホール)

## CONTENTS

第31回定例会 電磁界の健康影響について質疑応答 .....	2
第32回定例会 情報共有会議で県・市・村・事業者の代表と意見を交わす .....	3
第33回定例会 3件に質疑が集中 .....	2・3
発電所を巡る動き みんなの広場 .....	4



刈羽村 品田村長



東京電力(株) 柏崎刈羽原子力発電所  
千野所長

### 柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会(「地域の会」)

柏崎刈羽地域では、現に存在する原子力発電所と対峙して生活せざるを得ません。それが事故無く稼動することは、個々の考え・主張の如何によらず、住民の最低かつ共通の思いです。

「地域の会」では、発電所そのものの賛否はひとまず置いて、安全運転に係る事業者や行政当局の必要にして十分な情報提供に基づき、発電所の安全について状況を確認し、地域住民の素朴な視線による監視活動を行うとともに、必要な提言を行うことを目的に、平成15年5月に発足、設置趣旨に沿った様々な活動を行っています。

#### 地域の会 概要

- ①委員は、柏崎市、刈羽村に在住し、会が認める各種団体および地域の推薦を受けた24名の委員で構成。任期は2年。
- ②会の任務：(1)原子力発電所の運転状況及び影響等の確認・監視  
(2)事業者等への提言  
(3)会での議論、活動等の住民への情報提供  
(4)委員の研修  
(5)その他会の目的を達成するために必要と認められる事項
- ③県、市、村、国、事業者はオブザーバー、又は説明者として出席
- ④会議の種類：定例会(毎月1回)  
臨時会(必要に応じ開催)  
※会は、原則すべて公開。

# 第31回定例会

## 電磁界の健康影響について質疑応答

### 第31回定例会の概要

開催日	平成18年1月11日(水)
場所	柏崎原子力広報センター 研修室
出席者	18名(欠席6名)
オブザーバー	新潟県、柏崎市、刈羽村、保安検査官事務所、地域担当官事務所、東京電力㈱、保安院電力安全課
内容	●前回定例会以後の動き ●質問事項に関する回答 ・電磁界について ●勉強会「放射能と放射線の基礎」 講師 泉 幸男氏 (NPO 原子力地域防災支援センター 理事)

果関係の有無を検証する必要があるが、現時点では疫学研究結果及び生物学的研究結果共、健康に悪い影響を及ぼす可能性を示唆する再現性のある結果は得られていない。

また、いろいろな研究機関や専門機関で健康影響について見解を出しているが、結果は出ていない。国際がん研究機関(IARC)では「発がん性があるかもしれない」とされている。

日本の電磁界に対する規制は電界に関して、人の感電防止のために電気事業法により定められているが、磁界に関しては人体に悪影響があるという証拠が認められていないため、規制値を定めていない。

身の回りの電磁界の強さを比べると送電線の下での電磁界の大きさを例えてみてもヘッドライヤーよりも小さく掃除機や電気カーペットと同じ程度。いずれの場合も国際非電離放射線防護委員会設定のガイドラインよりも十分低い値となっている。

【東京電力】  
当社としても保安院の説明のとおり送電設備から発生する電磁波は、国の見解を超えるものではなく、また、当社独自の動物実験結果からみても、人の健康に有害な影響を及ぼすことはないと考えている。

【質疑・応答】  
Q 東京電力は実験していると言いつながら、データを示さずに安全だと言っている。送電線ルートでの測定値を調べて示してもらいたい。

A (東京電力) 実験結果のデータは報告する。また、送電線下の磁界の実測値もあるが、委員と協議をし、場所を決め測定をさせていただく。

Q 東京電力の送電線は学校の上を通っていることはないのか。

A (東京電力) 柏崎刈羽原発の送電線ルートでは線下には学校はない。前回定例会以後の報告が各オブザーバーからあり、質疑応答がなされた。

Q プルトニウム利用計画について具体的な場所を示さない発表は、信頼回復の観点からも納得できない。

A (東京電力) 地元の意向を踏まえて申し上げられる範囲の計画を記載しました。今後も引き続き安全運転の徹底、業務品質の向上に努め、信頼回復に取り組んで行く。

### 専門講師を招き勉強会を実施

「NPO原子力地域防災支援センター」理事 泉幸男氏を講師に招き、「放射能と放射線の基礎」をテーマに人体へ影響・原子力防災について知識を深めた。

Q 放射能は洗い流せば落ちると言うが、どの種類の放射能ですか。

A 放射性物質の状態には固体・液体・気体とあり、気体にもガス状や粒子状のものがある。ウラン燃料が粒子なので放射性物質も大部分粒子と考えている。

Q 燃料被覆管(さや)が破損した時に出る放射性物質の種類は何か。



# 第33回定例会

## 3件に質疑が集中

### 第33回定例会の概要

開催日	平成18年3月1日(水)
場所	柏崎原子力広報センター 研修室
出席者	21名(欠席3名)
オブザーバー	新潟県、柏崎市、刈羽村、保安検査官事務所、地域担当官事務所、東京電力㈱
内容	●前回定例会以後の動き ●質問事項に関する回答

### 新潟県国民保護計画に意見を提出

計画の細部について言及することはできないが、原発周辺の住民としての最大の望みを意見として提出したい。(国民保護計画に対する意見 全文は左記)

新潟県知事 泉田 裕彦 様  
新潟県国民保護計画(素案)に対する意見  
度重なる審議を重ねられ、まとめ上げられた協議会に敬意を表します。  
地域の会としては、原子力発電所の立地に住まう住民として、一言申し上げます。  
県内には重要施設が多数ありますが、原子力発電所は他の施設と特性が大きく異なります。原子力発電所が武力攻撃等を受け、放射性物質又は放射線が発電所外へ放出される被害が発生すれば、その影響は計り知れず大変な事態を招くことになります。  
このことから、国民保護計画と同時に、こうした事態も平和的解決が可能であり、他の原子力発電所立地の自治体とも協力して国に対し武力攻撃事態の回避に向けた不断の外交努力を継続的に求めているとお願いいたします。  
平成18年3月1日  
柏崎刈羽原子力発電所の  
透明性を確保する地域の会

### ハフニウム板型制御棒のひび等について

福島第一6号機(停止中)で平成18年1月9日に発見されたハフニウム板型制御棒のシース(さや)部とタイロッド(心棒)のひびについて保安院は各電力会社に調査を命じ、その結果、当面の措置として運転中の原子炉については一定以上中性子を照射された同型の制御棒について全部挿入する対応をとった。

Q ひび発生の仕組みが分からないのに、なぜ、全挿入で運転を継続させたのか。

A (保安院) 中性子の照射である程度ひびが入るといった知見は我々にもあり、その状態での健全性はこれまでも確認してきた。現在、慎重に事象を解析中。

Q 当該の制御棒を全挿入で運転することの安全性は本当に検討されたのか。

A (保安院) 原子力安全基盤機構(JNES)や原子力研究所など複数の機関に健全性の確認などの依頼や指示を出している。

うのはどういふことか。

A (東京電力) ハフニウム板型制御棒の導入当初から、使用済みとなるまでの4〜5サイクルの間では定期検査毎に確認を行ったがひびが確認されず、使用に耐えるものとしていた。現在そのメカニズムについて説明を急いでいる。

Q なぜ全挿入するのか。

A (保安院) 制御棒が入らなくなることは安全上問題であり、それを回避するための対応である。

Q タイロッド(心棒)が折れた場合の現象と対応は。

A (保安院) 毎月制御棒の動作確認試験を行っており、動作に異常があれば確認できる。その点検結果で安全性が確保されないような状況なら、当然原子炉を停止するということになる。

意見 技術的に問題がないかもしれないが、運転しながらことを進められるのは住民感情としては不安。このこと



送電線から出る電磁界は周波数によって超低周波に分類されます。健康影響については「疫学研究」と「生物学的研究」を総合的に評価し因

# 第32回定例会

## 情報共有会議で県・市・村・事業者の代表と意見を交わす

### 第32回定例会の概要

開催日	平成18年2月1日(水)
開催場所	柏崎産業文化会館 3F大ホール
出席者	22名(欠席2名)
オブザーバー	新潟県、柏崎市、刈羽村、保安検査官事務所、地域担当官事務所、東京電力㈱
内容	●前回定例会以後の動き ●オブザーバーとの意見交換 ・新潟県原子力安全対策課長 ・柏崎市長 ・刈羽村長 ・東京電力 所長

### 「原子力防災訓練視察のまとめ」

昨年11月に行われた原子力総合防災訓練に対する意見を国・県・市・村・事業者に対して提出した。

原子力防災訓練を視察して

日ごろ原子力発電所の安全対策に尽力いただいていることに敬意を表します。ここ数年来、地震・水害・雪害・停電と、大規模かつ深刻な災害や事象が頻発しております。'05年11月に実施された原子力総合防災訓練は、新潟県では初めての国レベルの訓練であり、今までにも増して住民にとっては、現実味を帯びた注目度の高い訓練であったと思います。

地域の会では、各訓練会場に分かれ委員が視察した後、数回の意見交換を重ねました。その結果、原子力発電所のある地域住民として、防災は、それぞれが自分の事として捉える必要性を再確認いたしました。

国・地方自治体に対して、今後は複合災害も想定されるべきこと、オフサイトセンターの更なる充実(ヘリポート・報道スペースの確保)、現地本部の権限の見直し(迅速な対応)など、訓練結果を踏まえて、立地住民の理解と納得が得られる改善をされるよう望みます。

東京電力株式会社に対しては、関連企業を含めた教育や訓練、情報の共有等をさらに拡大し、事故を起こさないこと、更には、あらゆる想定のもと訓練を重ね、万が一に備えられますよう望みます。

なお、原子力総合防災訓練に関する、地域の会委員の意見・感想及び質疑応答の詳細は、別紙添付いたしましたので、併せて検討くださるよう要請します。

平成18年2月1日  
柏崎刈羽原子力発電所の  
透明性を確保する地域の会

までの地域振興から最近では安全性に重点が移ってきたように感ずる。一つの懸念として高経年化問題と固定資産税の漸減がある。

また市の原子力防災計画も来年度より実効性のあるものへと見直しを行う。

フランスの状況 (刈羽村 品田村長)

過去3回のフランス訪問で気質の違いというものを一番感じている。日本では市町村合併や地方分権が話題となっているが、あちらでは地方がしっかりと自立している。住民、事業者、規制機



■原子力に対する思い (柏崎市 会田市長)

市政の舵取りは市民の意見を良く聞きながらやる必要があるが、こと安全に関しては立場の違いを越えた共通の問題と認識している。

国の原子力政策、行政が大きな転換点にあるように思う。それは原子力政策大綱改定や原発にまつわる交付金制度の流れに見られる。また、全国の自治体で構成する全原協においても、これ

関が、日本と違いきちんとコミュニケーションできてきている。また、発電所周辺には軍隊が駐留している、消防もこちらで言うとボランティアのような組織である、事業者は地域に対し税金のよつてのみ貢献しており、お互いそれで十分と認識しているなど対等の関係にあることを基本としている。

(東京電力㈱ 柏崎刈羽原子力発電所 千野所長)

■ヒューマンエラー防止対策

不適合管理を対策の要とし、組織的な管理・掌握をすることも様々な対策に取り組んできた。最後は実際に作業を行う一人一人にかかってくるので、現場第一で取り組んでまいりたい。

■協力企業とのコミュニケーションの充実

約500社、4,000人が働く協力企業とのコミュニケーションをいかに取るかが極めて重要であると考えられる。そのために作業管理と品質管理及び安全管理を協力企業と一緒にする、情報の共有化、企業協議会を設けコミュニケーションの充実を図る。

この2つの活動を通し地域の安心・信頼を目指してがんばりたい。

Q ステンレス316L材をシース部に使った制御棒は20年近く前からある。それがこの1月にひびが見つかって調査したら2割もひびが入っていたとい

### 流量計試験データの不正について

平成18年2月9日に(株)東芝から柏崎刈羽7号機についても原子炉給水・復水流量計の実流量試験データに不正があると保安院に報告があり、東芝本社等に立入調査が行われた。

Q この不正問題に対して国はどう対応するのか。

A (保安院)電気事業法や原子炉等規制法では電気事業者を規制対象としており、東芝などのメーカーに対してできる範囲には限界がある。現在は不正の可能性があると報告を受けている段階で、その結果により事業者である東京電力に改善なりの命令を出すことになる。

### 超音波探傷試験で

### 確認できなかった亀裂について

福島第二3号機の原子炉再循環系配管で検査でひびが確認された部分を交換したところ、新たなひびが確認された。保安院は切断前の超音波探傷試験での経過、技術的根拠について平成18年2月8日に報告を求めた。

Q 柏崎でも同様な見落としがないのか。

A (東京電力)福島と同じ評価過程を踏んで、溶接部の配管内側で見られる裏波と言われるものと判断した事例はない。



Q 「いま

を考慮してもらえないか。  
意見 そのことを理解させる努力と姿勢がもっと早くに必要ではないか。

Q この流量計の役目はなにか。

A (エネ庁)原子炉を通る水の量を元に、原子炉でどれだけの熱が出ているか計算している。

Q この流量計が設置してある部分は流速が速くなるようだが、減肉管理は大丈夫か。

A (東京電力)手元の資料では回答できない。

意見 原子炉設置許可での精度は満たしていたが東電に納入する際の精度に達していなかったということだが、高い精度を求めすぎるとそれができなかったときにこのような問題が起こる可能性があるのではないか。

で再循環系配管でのひびは見落としはない」と言ったのではないか。

A (東京電力)原因を調査し、対策を考え、検査の精度を上げていくことが必要と考えている。

Q 過去にも、超音波探傷の精度を上げるとか、X線を使うなど聞いたが、どうか。

A (東京電力)今回もフェーズドレイ法という新しい測定方法を取り入れたが、溶接の裏波とひびが近接していた、非常に信号が弱かった、全周に渡る信号だったことなどが重なり裏波による信号と誤認した。今後、そういうことのないような策を確立していく。

意見 検査する姿勢として、「ひびがないこと」を確認するのではなく「ひびを見つけない」、「傷だと疑ってかかる」という感覚で検査してほしい。

# 発電所を巡る主な動き (12月7日~3月1日)

12月7日	保安院 原子力施設のトラブルに対する国際原子力事象評価尺度(I-NES)の適用について結果公表 柏崎刈羽原子力発電所6号機の定期検査開始について公表 保安院 東北電力(株)東通原子力発電所第1号機の使用前検査合格証の交付 9日 県 柏崎市 刈羽村 安全協定に基づく状況確認 ・i-57号機運転保守状況等の確認 ・平成17年度定期検査年間計画(変更版)について ・不適管理状況の概要(10・11月分)について 柏崎刈羽原子力発電所構内物揚場でのけが人の発生について公表 16日 柏崎刈羽原子力発電所1号機ジェットポンプ流量計測用配管等の点検による定期検査工程の延長について公表 19日 保安院 実用発電用原子炉に係る平成17年度第2四半期の使用前検査及び燃料体検査の合格並びに定期検査の結果について原子力安全委員会に報告 22日 柏崎刈羽原子力発電所2号機の原子炉起動操作実績について公表 柏崎刈羽原子力発電所3号機の出力低下について公表 保安院 東北電力(株)女川原子力発電所において宮城県沖の地震時に取得されたデータの分析・評価及び同発電所の耐震安全性評価に関する検討結果について、その報告内容は妥当と評価し、耐震安全性は確保されることを確認 24日 柏崎刈羽原子力発電所3号機における制御棒引抜監視装置の不具合について公表 26日 定期検査中の柏崎刈羽原子力発電所2号機の発電開始について公表 新潟県 東京電力(株)に対しブルトニウム利用計画に柏崎刈羽原子力発電所が明記されて公表されることは地元との信頼関係を損なうものであることから適切に対処するよう要請 27日 新潟県 柏崎市、刈羽村 安全協定に基づく状況確認 保安院 原子力安全・保安院報告書「実用発電用原子炉施設における高経年化対策の充実について」に係る指示文書等の制定等公表 1月6日 柏崎刈羽原子力発電所1号機ジェットポンプ流量計測用配管等の点検結果について公表 六ヶ所再処理工場で回収されるブルトニウムの利用計画について公表 10日 「BWR事業者協議会」の設立について公表 県 柏崎市、刈羽村 安全協定に基づく状況確認 ・i-57号機運転保守状況等の確認 ・工事計画の概要(平成17年度第3四半期) ・不適管理状況の概要(12月分)について 定期検査中の柏崎刈羽原子力発電所6号機における制御棒案内管からの溶接棒の回収について公表 16日 柏崎刈羽原子力発電所6号機タービン建屋(非管理区域)でのけが人の発生について公表 保安院 東京電力(株)福島第一原子力発電所第6号機のハフニウム板型制御棒のひび等に関する対応について東京電力に対して指示 20日 東京電力社長(年始)挨拶について公表 保安院 制御棒のひび等に関する点検について指示をふまえた東京電力柏崎刈羽原子力発電所の運転中の原子炉における対応等について確認 保安院 女川原子力発電所における宮城県沖の地震時に取得されたデータの分析・評価及び耐震安全性に関する検討結果について内容が妥当なものと評価され耐震安全性は確保されることを確認し東北電力(株)に通知 3月1日 色は東京電力の動き 色は行政の動き
-------	--

## 地域の会に寄せられた **声**

# みんなの広場



**信頼回復のために**  
柏崎市 小山 聡さん

柏崎刈羽原子力発電所に対しての地元住民の不信感は、残念ながら完全に払拭されてはいない。最大の理由は、大事に至らないにせよ、今まで少ないとは言えないトラブルがあったからに他ならない。しかし感情的な面も大きいようである。少々乱暴な言い方になるが「ヨソの為の電力をヨソ者が作っている」からであり「安全管理の面でヨソ者は信用できない」ということだろう。いざという時の即応力やモラルは飽くまでも個人の資質ではある。しかし愛する家族、親戚や友人知人を近郷に抱え、共に根をおろしている地元出身者ならば安全管理について安心感や期待感が持てることも事実である。ここに「死んだって俺一人」の単身赴任者(差別的で失礼な言い方ではあるが人間とはそう言うものである。逆の立場を想像してもらえないか)や一時的な配置換えで回ってきた人との間に地元民の抱くイメージの上で決定的な違いがある。

トラブルの多くは油断から起きる。我々の頭の片隅には、今までのトラブル(隠しも含めて)の内の幾つかは地元出身者が担当していたならば起きなかったのではないかとの思いがある。

今年も卒業、進学シーズンとなった。毎年二百人以上が柏刈地区から大学に進学する。その中には専門分野で優秀な人材もいるだろう。そういった人達の為にも、将来安全管理部門で権限のある要職に就ける形での地元出身者の雇用拡大が望まれる。



**無知無関心な私が 貴会に望むこと**  
長岡市 山崎 光輝さん

原子力発電所の存在の善し悪しを話題にあげる人がまだいることに疑問を感じます。今そのことを議論して何になるのでしょうか。

柏崎刈羽原子力発電所にて発電される電力は、電力の供給を止めることの決して出来ない日本の政官財の中心である関東圏へ送電されています。代替エネルギーの研究、実用が現在の需要に追いつかないのであれば、善し悪しを議論してもしょうがないのではと私は思います。

私は今年37歳になりますが、原子力発電所は物心ついた時には既にそこに存在し、ずっと稼動し続けています。そのことが苦になったこともありません。私が原子力発電というものに無関心だからでしょうか。しかし、私の知っている限りそういう人の方が多いように思われます。もちろん、万が一の事故の発生を想像すると、不安はあります。(本当は想像もつきませんが・・・)

だからこそ、地域の会の皆様には、原子力発電等のエネルギー問題に無知無関心の私のような人間の代わりに、よりいっそう厳しい目で国及び関係自治体、また事業者への監視・提言をぜひ続けて行って頂きたいと思っております。

私は旧小国町に住んでいます。今は長岡市に合併はしましたが、場所が移動したわけではなく、相変わらず発電所立地地域に隣接したままです。その住民の声を拾ってくれる、また情報を発信してくれる「視点」には感謝しております。これからの貴会の御活躍御期待申し上げます。

「視点」では皆様のご意見をお待ちしています。宛先は下欄住所まで、またメールでも受付けております。

### 今後の「地域の会」定例会の開催案内

**第34回定例会**  
日時:平成18年4月5日(水)午後6:30~  
場所:柏崎原子力広報センター(研修室)

**第35回定例会**  
日時:平成18年5月10日(水)午後7:00~  
場所:柏崎原子力広報センター(研修室)

会は公開で行われていますので、お気軽にお越しください。

地域の会ではホームページで活動の全てを公開しています。  
ホームページでは活動状況をタイムリーにお知らせすると共に、会議録、会議資料の全文を公開しており、資料をダウンロードすることもできます。  
また、ホームページおよび地域の会に対するご意見・お問合わせについて、ホームページ上からも受け付けています。

<http://www.tiikinokai.jp>

### 編集後記

最近、原子力発電所からの不適切事象や疑義等の情報が多く発表され、地域の会の運営計画もその対応で変更を余儀なくされています。安全・安心を得る意見・提言を、疑問点の詳細説明を求めているのですが、国も東京電力も回答が遅いのが気になります。

会の目的に「原子力発電所を事故無く稼働させるために、地域住民の素朴な視線による監視活動と必要な提言を行う」とあります。私たちはこの目的のために懸命に取り組んでいますが、その地域住民の反響が少なく思っています。

地域の会が形式化せず、常に住民の視線に添った意見や提言を発していくためには、市民・村民の皆さん多くの意見が必要で、視点はその接点であり、重要なツールと思っています。紙面の構成や、もつと知りたいたい点、ご意見・提言等々多くの投稿をお寄せ頂けたら幸いです。

豪雪の冬も終わり、日増しに暖かくなってきましたが、花粉が苦手な人には大変な季節かもしれません。花粉症対策は年々進歩しているようです。臭いも味も無いと思いますが、花粉情報は出ています。防衛を怠りなく、近づく春を待ちましょう。

(運営委員 M)

事務局:財団法人 柏崎原子力広報センター 〒945-0017 新潟県柏崎市荒浜1丁目3番32号  
TEL 0257-22-1896 FAX 0257-32-3228 E-mail info@tiikinokai.jp

4